

2010.12.17：平成22年_文教常任委員会（第2号） 本文

○委員長（大野 眞君） これより質疑を行います。質疑はありますか。
宇野委員。

○宇野 裕委員 何点かお尋ねをしたいと思います。

まず1点は、今回、今、御説明いただきましたように、23年度当初予算で計上しようとしていた事業の中、前倒しして予算化をするというようなお話でございました。そういうお話を受けての質問なんですけど、まず耐震工事や老朽化対策など、候補となる改修工事がいろいろあったと思うんですが、積み残してるものがですね。この優先順位というか、どのような基準で工事を選んだのかという点、まず御質問したいと思います。

2点目は、市川特別支援学校の分校について、統合により使用しなくなる市川北高校の施設を活用するというようなお話をちょっと聞いてるんですけども、どの程度の規模になるのか。また、施設はすべて活用するのか。その辺のところ、ちょっと、まずお尋ねしたいと思います。お願いします。

○委員長（大野 眞君） 石野財務施設課長。

○説明者（石野財務施設課長） 耐震工事や老朽化対策など、候補となるような改修工事が多くある中で、どのような基準でこれらの工事を選んだのかという御質問でございますけれども、国の補正予算のうち、安全・安心なまちづくり交付金に対応する事業として、県立学校では特別支援学校の施設整備が該当するということから、平成23年度当初予算で計上を予定していた事業について前倒しが可能だというものについて実施することといたしました。この中で、耐震化推進事業として流山高等学園第2キャンパスの体育館でございますけれども、こちらのほうは、第2キャンパスそのものは既にことしの4月開設していることから、体育館に関しても早期に改修する必要があるということでございます。また、空調設備につきましては、普通教室につきましては今年度で整備が完了予定ということでありますけれども、特別教室につきましては整備を進めているところであり、前倒しをしながら早期に整備を終えるということにするためでございます。さらに分校・分教室整備ということで、市川北高校を市川特別支援学校の分校に、佐倉南高校の一部を印旛特別支援学校の分校、そういうことで整備することとしまして、本年度改修工事の設計をしております。このため、前倒しして早期に工事に着手するために12月補正ということで今回計

上させてもらったものでございます。

○委員長（大野 眞君） 渡邊特別支援教育課長。

○説明者（渡邊特別支援教育課長） 市川特別支援学校の分校ですが、市川北高校を活用するとのことだが、どの程度の規模になるのか、また施設はすべて活用するのか、そのような御質問であったかと思えます。市川特別支援学校の分校については、葛南地区の児童・生徒の増加の緩和策として、特別支援学校高等部の軽度知的障害の生徒を対象とした職業的自立を目指す分校として平成24年4月を目途に開設する予定であり、1学年12学級で96人、全体で36学級288人規模を予定しております。また、施設については、校舎、体育館等、主な建物は使用することとし、耐震性能を向上させるための改修工事や職業的自立を目指すため、物理教室や工芸室などの特別教室を作業学習の実習室に改修するなどの大規模な改修を予定しております。

以上です。

○委員長（大野 眞君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 わかる範囲で、さらに質問したいと、お答えいただきたいんですが、追加計上ということで、工事に向けてのスケジュールがおおよそわかれば、どういうスケジュールでやるのかという点ですね。

それから、23年度から26年度までの計画ということ为先ほど御説明受けたんですけども、今22年度ですけど、23年度末ぐらいの時点でどのぐらいの進捗率になるのか、おおよそでいいんですけども、その辺わかればなと思えます。

あと最後に1点ですが、今回、県債もかなり財源としてあるようですけども、この辺の県債の返済財源みたいなものがもしわかれば教えていただきたいと思えます。

3点です。

○委員長（大野 眞君） 石野財務施設課長。

○説明者（石野財務施設課長） 工事のスケジュールでございますけれども、まず流山の

第2キャンパスの体育館、それから市川北高校、それから佐倉南高校、こちらの整備につきましては現在設計をしておるところでございますので、設計ができ次第、次の手続、工事のほうに入っていきたいというふうに考えております。

それから、空調の関係でございますけれども、こちらのほうが22年から26年という形で順次やっていこうということでございますけれども、こちらにつきまして、21年度から一部入れまして、それから今回のということで、約半数を整備したいというふうに考えております。

それから、県債のことでございますけれども、補正予算債ということでございまして、これにつきましては全額交付税で措置されるということになっておりまして、一般財源等の持ち出しはないということでございます。

○委員長（大野 眞君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 基本的に私はこういうもの、やるべきものはどんどん早くやって、どっちみちやるわけなので、早くやるということには私は基本的に賛成です。特別支援教育、いろいろなハードの面でやらなきゃならないもの——改修にしても、先ほどのエアコン類というんですか、空調類、それから老朽化対策、いろいろやらなきゃならないのはたくさんあると思いますので、26年という期限にこだわらずに、早くやれるものは早くやっていただきたいという気持ちでおりますので、私は賛成をさせていただきたいと思います。頑張ってください。よろしく申し上げます。

以上です。